

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年11月26日（水）

2 確認箇所

B排水路、C排水路及びBC排水路（図1）

3 確認項目

B排水路、C排水路及びBC排水路の現況確認

4 確認結果の概要

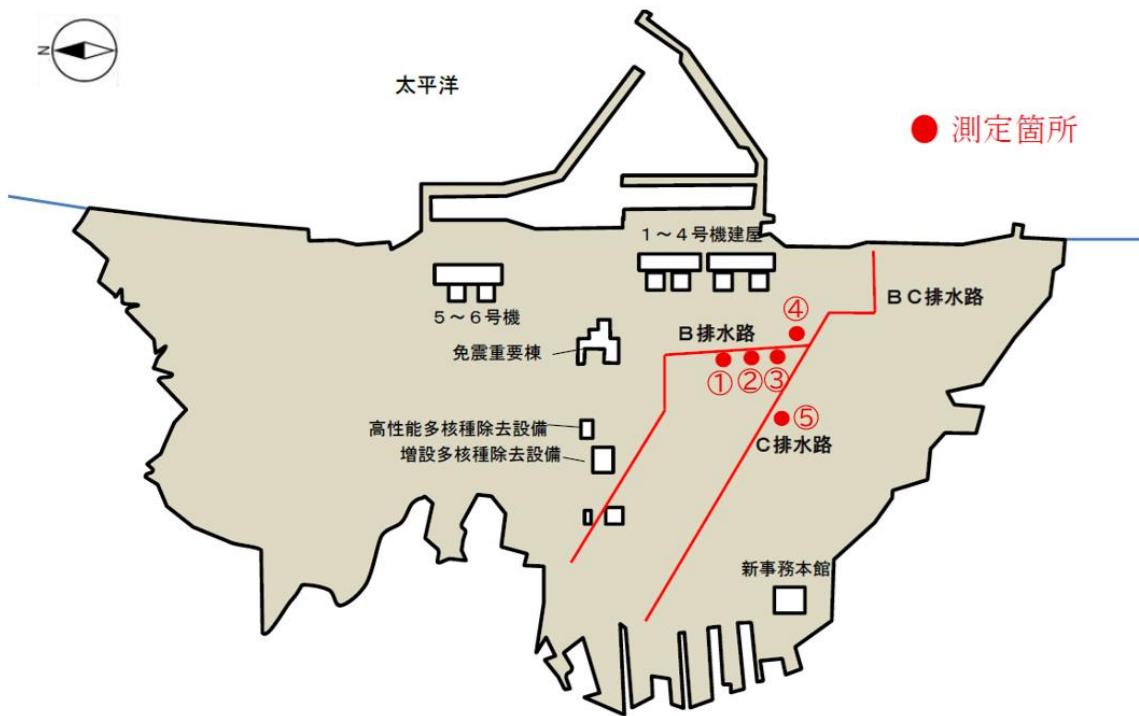
福島第一原子力発電所内の排水路においては、日常的な放射性物質濃度の傾向監視のために毎日1回の採水による手分析の他に、タンク等から漏えいした水の流入を検知する目的でPSFモニタ※による連続監視が行われている。

11月4日及び11月5日のBC排水路の手分析結果において、 β 線核種放射能濃度の若干の変動（測定値：200～270Bq/L、前日まで概ね定量下限値未満～83Bq/Lで推移）が見られたことから、今回、BC排水路の流入元であるB排水路及びC排水路の流域の状況を確認した。（図1）（前回確認：令和7年4月7日）

※PSFモニタ：排水路等の放射能濃度を連続監視するための放射線検出器。降雨によるフォールアウトの影響（放射性Csに起因する γ 線）で指示値が上昇する傾向があるため、PSFモニタは、 β 線+ γ 線の検出部と γ 線の検出部を有し、それぞれの測定値の差を取ることで、 β 線（Srの寄与）が測定可能である。なお、東京電力ではすべての排水路において、PSFモニタの警報値を、高警報（検知した際に排水路ゲートを「閉」対応）で1500Bq/L、高警報（調査レベル）で750Bq/Lと設定している。

- ・確認した範囲において、土砂等による排水路のつまりは確認されなかった。（写真1）
- ・排水路へ放射性物質が流入した場合の漏えい拡大防止策として設けられている電動開閉ゲートを確認したところ、設備に異常等は見られなかった。（写真2）
- ・B排水路及びC排水路に通じる側溝や、暗渠周辺5箇所において、サーバイメータを用いて汚染の有無を確認したところ、タンク等からの漏えいが疑われるような高い放射能濃度の場所は確認されなかった。（写真3）
- ・11月25日時点のPSFモニタの値について、東京電力の管理データを確認したところ異常は見られなかった。

- ・東京電力が公表しているB C排水路を除く排水路の測定結果では、放射能濃度の有意な変動は確認されておらず、B C排水路の値についても11月6日以降緩やかに低下している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
B排水路の状況



(写真 1－2)
C排水路の状況



(写真 1－3)
B排水路とC排水路の合流部の状況



(写真 1－4)
B C排水路の状況



(写真 2)
電動開閉ゲート（C－1）の状況



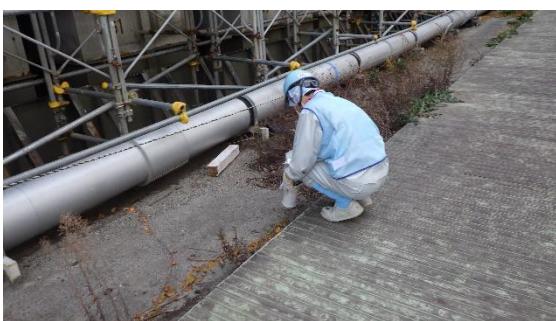
(写真3－1)
測定点①の状況



(写真3－2)
測定点②の状況



(写真3－3)
測定点③の状況



(写真3－4)
測定点④の状況



(写真3-5)
測定点⑤の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。